



Weekly Report

2024-25



60th
Anniversary

創立/1965年5月22日
例会日/毎週木曜日 PM12:30~
会場/江南商工会館1F 大ホール
江南市古知野町小金112
0587-54-8132

事務局/江南商工会館 別館1F
TEL/0587-55-6554
FAX/0587-59-7720
URL/https://www.konan-rc.com
Mail/konanrc@beach.ocn.ne.jp
会長/南村 朋幸 幹事/三輪 慎一郎 会報委員長/横山 史明



2025年(令和7年) 1月23日(木)晴れ 第2824回(当年度第21回 例会)

点 鐘 会長 南村 朋幸君
司 会 SAA 岩田 静夫君
ロータリーソング斉唱 「それでこそロータリー」
ソングリーダー 田中 健君
四つのテスト斉唱 田岡 剛君

— 言行はこれに照らしてから —

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか



会長挨拶 会長 南村 朋幸君

皆さん、こんにちは。
さて昨日、大口町民会館ホールにおいて、江南警察署
感謝状贈呈式に参列してきました。
毎年のように行われている行事であり、私は江南ロータ
リークラブの会長として参列し、ロータリアンでは他にも
松岡さん、佐藤さん、岩倉 RC の武藤さんなどが参列さ
れていました。
この感謝状は、毎年警察業務の各般にわたり特にご理
解・ご協力のあった団体・企業・個人に対して贈られるも

のであり、多くの皆様が感謝状を拝受されておられまし
た。

本年、クラブの会長職を預かり、様々な場面に出席させ
て頂く機会が増えました。そこで改めて感じるのは、江南
ロータリークラブがいかに地域に受け入れられている
か、ということです。

60年の歳月をかけて先輩方が積み重ねてこられた実
績が地元からの信頼を得て、その信用のもと更に実績
を積み上げていく、正にこの連鎖が地域との繋がりをよ
り深くしているのだらうと思います。

本年度、この地域との繋がりに感謝し、59年の長きに
亘り信頼と実績を脈々と積み上げてこられた先輩方に
感謝できることは無常の喜びであります。

年が明けて当年度も下半期に突入しました。

そんな思いを胸に60周年記念事業、残すところあと2.
5発！頑張ってくださいるので、引き続き皆様の熱すぎ
るくらいの暖かいご協力をお願い申し上げます。

さて、本日は、年男・年女語る！の卓話です。

旬の方々の自由なテーマでのお話し、とても楽しみです。
また、次週の例会は STS 例会で、ロータリアンでもある
矢場とん社長のお話。お弁当も矢場とん弁当で揃えま
す。今のところ、8名のゲストも来てくださるようでござ
います。メンバー皆様にも是非とも例会へのご出席をお願
いいたします。

ちなみに、本日のチラシで江南警察からの注意喚起の
ご案内を配布させて頂いています。SNSロマンス詐欺
というのが横行しているそうなので、引っ掛かりそうな方
はよく読んでいただき、十分にご注意ください。

出席報告 委員 松野拓也君

会員数	出席者数	欠席者数	出席率
51名	42名	9名	84%

ニコボックス 委員 松野拓也君

○新春に思いを語る蛇口達

本年の年男、年女、宜しくお願い致します。

南村 朋幸、永田 広光、三輪 慎一郎、北畑 祐二 各君

○「年男語る」で登壇させて頂く喜び 堀尾 庄一君

○本日の卓話48才年男語ります！ 駒田 洋平君

○本日、つたない卓話ですが、よろしく願いたします。

伊藤 かね子君

○本日、年男語らせていただきます。 林 庸介君

○堀尾庄一君、伊藤かね子君、(野々垣裕司君)

駒田洋平君、林庸介君。

本日の卓話、宜しくお願い致します。

松岡 一成、庄田 元久、古田 嘉且、冨永 典夫、杉浦 賢二、岩田 静夫、長瀬 晴義、波多野 智章、富田 清孝、木本 寛、岩田 進市、近藤 道麿、駒田 洋平、山崎 博征

各君

卓話 年男・年女語る！ =巳年=



伊藤 かね子君

本日は年男、年女の卓話ですが、話すネタがないので大口屋のお話にしたいと思えます。大口屋はその昔、初代善兵衛が大口町出身だったのでそこから大口屋と名付けられたと聞いています。創業は江戸の末期文化文政の頃、11代将軍徳川家斉の時代(1818年)としていますが、詳しくは資料が無いので不明です。残念ながら当時からのお菓子はありませんが、明治時代に群役所から親孝行をしたとの事で善行の症状をいただきました。そこから名付けられた善行最中や酒元まんじゅうや上用まんじゅう等が中心でした。酒元まんじゅうは今お休み中ですが、現在はさんきらが中心となっています。本店の座敷には「甘味天来」の書の額が掲げられています。「大池青嵐」先生が書かれたものです。「甘味天来」甘味は天からの授かり物、自然が時をかけて培った味という意味です。このコンセプトを大事にしてお菓子

作りに励んでいます。大口屋といえば「さんきら」といわれる主力商品の「あんぶさんきら」は亡くなった先代が友人のお塾屋さんと試行錯誤しながら開発したと聞いています。約50年くらい前です。当時はあまり売れなかったようですが、徐々に地元のファンが増えて、寺院関係や舞踊関係の方に紹介していただき、徐々に売れ出してデパート等にも声を掛けていただいたりし、ロコミで広がったようです。今の時代ならSNSであつという間に広がるのですが、現在はいろいろな皮とか餡を変化させたシリーズを七代目が開発してヒットしています。日持ちがすると良いのですが、何せ無添加ですので賞味期限が二日ということが長所でもあり短所でもあります。これからも地元の銘菓として売れていくと良いと思います。皆さまの応援をお待ちしております。



林 庸介君

こんにちは。改めまして、皆さん、本年もよろしくお願い致します。

昭和52年、巳年生まれのエです。今年の3月15日で48歳になります。自分が48歳になる、ということに対する率直な感想は、まさか自分が48歳になる日が本当に来るなんて！という気持ちです。48歳という年齢の印象は、人によって異なるとは思いますが、世間一般的に「本格的なおじさん、おばさん」の年齢だと思えます。普段、皆さんとご一緒させていただいておりますので、自分は若者のつもりでおりましたが、それが錯覚であることに気付いてしまいました。

さて、今日はフリーテーマということで、いろいろ考えた結果、少し堅くて面白くない話をしますが、5分だけお付き合いください。

昨年は、元旦に能登半島地震があり、2日には羽田空港での飛行機衝突事故と、衝撃的な年明けでした。今年は何も無ければ良いな、穏やかな年明けだと良いなと思っておりましたが、年末にインフルエンザになってしまいました。家族も外出したり親族にも会いづらくなり、何とも申し訳なく、肉体的にも精神的にも辛い年越しになりました。

年が明けてようやく元気になった数日後に、宮崎県の日向灘での大きな地震や、韓国で大きな飛行機事故がありました。イスラエルでの紛争は先日停戦が開始されましたが、ロシアとウクライナの争いはもうすぐ2年になら

うとしています。そして、今年の1月17日は私の地元、神戸市を中心とした、阪神・淡路大震災から30年ということもあり、いろいろ考えさせられることの多い年明けとなりました。

暗い話題は次で最後にしますが、昨年10月に父が亡くなったこともあり、少し感傷的になる時があるのか、ふとした時に、柄にもなく、今後の自分の人生について考えてしまう、そんな最近の自分がいます。

私には、何ができるのか？まず浮かんだのは、仕事を通して社会に貢献する、という当たり前のことでした。年男の節目に改めて思いましたのは、私の中心業務である、相続や事業承継分野の仕事に留まらず、何かあった際にも、お客さまの家族や会社、従業員の皆さまをお守りする、という生命保険の本質・原点に立ち返って、地に足を付けた活動を心掛けて行きたいと思っております。仕事以外で、自分の人生を通して、普段からできることはないだろうか？と、考えた答えの一つが、ロータリークラブの活動でした。付け加えると、ロータリークラブに参加していなかったら、このようなことを考えずらしていなかったかもしれません。まだ入会して1年半足らずで、正直、わかっていないことだらけです。ただ、昨年参加させていただいた、地区研修・協議会の入会3年未満会員の分科会での「世界中のロータリークラブが、奉仕活動を通してそれぞれの地域社会に良い変化を生むことが、世界の平和構築と紛争予防に繋がっていく」という主旨の話が、強く印象に残っています。今の自分では大それたことはできませんが、ご縁あって江南ロータリークラブに参加させていただいておりますので、普段の活動にできるだけ参加するだけでも、何かしら、地域社会の役に立てるのかもしれない、そしてそれが、大きな変化に繋がるのかもしれない、と思いました。

私は、家も仕事も江南市近郊というわけではありませんので、例会以外の活動に参加できない場面もありますが、今年は、昨年から続く創立60周年の行事も、まだまだありますし、それ以外の活動もできるだけ参加したいと思っておりますので、皆さん、今年もどうぞよろしく願いいたします。宣言通りの、堅い話にお付き合いいただき、ありがとうございました。



駒田 洋平君

みなさんこんにちは。年男の駒田です。もう48歳かと驚

いておりますが、人間50年の信長が49歳でいっておりますので、今のうちにやれる事をしっかりやっておかなきゃいけないと思います。

前の年男は36歳の時ですが、自分が何をやっていたのかなと思い返しますと、ちょうど吉平が生まれた年になります。開業して2年ほどでJCも仕事も大変な時期だったことを思い返します。今は開業して15年目になりまして、私含めて12人で会社をやらせて頂いております。売上規模も社労士業界の中では5%に入るくらいにはなっていると思いますが、2%いくと年商1億になるのであと3年くらいはかかると思いますが、1億はいくだろうなと思っています。

開業当初、資格一つで1億取れたら良いかなと思っておりましたが、逆に2~3%の人間が1億いくのであれば自分は絶対行くだろうなと思っておりました。なぜなら自分のエフィカシーが高いところで仕事していくと決めたからです。

皆さんエフィカシーってご存じでしょうか？簡単にいうと「自分だったら絶対できる」という自己評価や特性なのです。他者評価じゃないのです。「お前には無理だよ」とか人から言われても関係なくて「自分ができると言っているからできる」というのが、何においても最強のパフォーマンスを発揮すると思います。

エフィカシーが高いところで仕事していくと必ず成功すると思っておりますし、逆にエフィカシーの低いところで仕事をしていても、いくら研修をやっているが、努力しようがある程度で伸び悩んだりします。例えば、営業の仕事に高いエフィカシーを持っている人が、ずっと工場で働いていたりとか、体を動かす仕事に高いエフィカシーを持っている人が、事務作業ばかりしているとうまく成長できず、結局は会社も辞めてしまうこともあります。究極を言うと、努力しなくても体が勝手に動いてしまうような領域が人にはあります。

皆さんも経営者だと思っておりますので、ご自身のエフィカシーの高いところで仕事をされていると思いますが、従業員さん達は求人希望の職種に就かれていると思いますが、中にはやりたいことと特性は違い、エフィカシーを一人ずつどこにその方々のエフィカシーの高いところがあるのか確認して頂くと良いと思います。なかには特性が違っていることも考えられるためエフィカシーの高いところに仕事を就いて頂きますと会社も必ず成長すると思えますし、ご本人にとっても幸せな人生を送って頂けると思います。以上です。



堀尾 庄一君

私は年が明けましたので数えて72歳、6回目の年男になります。そしてロータリー入会後3回目の「年男語る」になります。

今年巳年、昭和100年にあたる年です。私は家業が米屋ですので、昔の蔵にはネズミがいて、それを食べるヘビがいました。それでヘビの抜け殻はよく見ましたし、それで遊んでいました。ヘビは何度も脱皮してはその都度一回り大きくなるということで、成長の年と言われます。しかし成長の年とはいうものの、人口の減少や円安などで日本の景気は決して良くなく、少なくとも私の周りでは成長とは程遠い状況です。時間がありますので、少しお米のお話しをします。お米に関心が無い方も、昨年からのコメ騒動はご存じかと思いますが、今のスーパーなどのお米の価格はロータリーのメンバーはご存じないと思いますが、一昨年の倍になっております。それでもあれば良いのですが、玄米の市場ではマネーゲームで流通が止まっております。国の農政は完全に失敗しました。だいたいお米を作らない生産者にはお金を渡し、作る人には出さないという矛盾した政策がうまくいかなかったと思います。このままではまたスーパーの棚からお米が消えます。これは国の安全保障にもつながる大きな問題です。お米のお話しはこれくらいにします。私は、おそらくこれが最後の「年男語る」になると思います。これは決して死ぬからということではなく、いつまでロータリーに在籍するかという自分の考えでの話です。実は私の父はロータリアンでしたが、満71歳、数え年72歳で亡くなっています。つまり全く今の私と同じ年齢です。それを思うと色々人生を考える年になってきました。多趣味な私ですが、昔から映画が好きです。この話は過去に何度も話していますが、祖父が昔、米の商売と別に江南駅の東で当時としては大きな銭湯を経営していました。当時江南には映画館が三つあり、銭湯にはそれぞれの館でかかっている映画のポスターが貼ってあり、そのためどの映画館も無料券でいつでも見放題の状態でした。そんなことで私は子供のころから邦画、洋画問わずに様々な映画を見てきました。今でも映画館に行くこともあります。プロジェクターと120インチのスクリーンがあり、自宅で映画を楽しんでいます。クリント・イーストウッドはそれほど映画に詳しくない方で

もご存じかと思いますが、私の子供のころ毎週テレビで見ていた「ロー・ハイド」という人気のアメリカの西部劇ドラマがあり、そんな頃からクリント・イーストウッドは主演でしたが、今は役者もやりますが、映画監督として数々の傑作を作っています。彼は現在94歳で、今また新しい映画の製作に取り組んでいます。映画を1本プロデュースするということは何10本もの様々な原作を読み、その中からこれはという作品を選んでシナリオ作り、スタッフ、役者、配役を考え、予算を作成してスポンサーを探して、やっと撮影を始めるのですが、1本の映画を作ることは新しいビジネスやプロジェクトを立ち上げるような大変さがあると思います。それを思うと94歳のクリント・イーストウッドのその驚くべきエネルギーに感心し、リスペクトしますし、彼からすれば小僧のような私はまだまだ頑張らなくてはと思います。

これから私のロータリーライフはエンドホリオに向かっていきますが、元気に楽しく頑張りますので、今後ともよろしくお願いします。

野々垣 裕司君

毎年この時期はJANOGという業界のミーティングイベントと重なることが多いので、登壇なしの原稿とさせていただきます。

江南ロータリークラブは60周年を向かえます。卒業した江南青年会議所も同じく60周年を向かえます。私の生まれた年に設立ということで周年イコール年齢となり、普段周年年数を聞いた時に年齢を聞かされているのでした。

青年会議所を卒業して「還暦まで20年もあるんだ」と思っていたらもうやってきたのかという感じです。

クラブに入会して2年目を迎えましたが、フードフェスティバルや地区研修等で、青年会議所卒業以来にお会いする方が非常に多く、私だけひとり同窓会となっていました。出向や研修等で日本中に行った事が多く、今になって多くの人がロータリアンとなっているのを知りました。

還暦を迎えてまだ一人でやっているのかという問題もあるのですが、ここでは置いておきます。

仕事の技術面で後継者を作っていくかといけなくなっています。これは私だけではなく業界全体の問題でもあります。DX(デジタルトランスフォーメーション)という言葉はご存じかと思いますが、これを行うには広義の電気工学だけではなく、情報工学、システム工学と多岐にわたります。電気工学といってもその中には、電子工学、通信工学等いろいろあります。私の年代まではこれら一通りやっているのですが、それ以降の年代は、情報工学を知っていても、電気のことを知らない、バーチャルの世界なので知らないという状態なのです。

ということで大学の教授が事実困っています。他業種と比べると時代の変化が早すぎるという理由もあります。皆さんが聞いたりする実際の問題として、大企業や金融機関のシステム入れ替えで障害が多いのもその一つです。

業界の末席にはおりますが、12年後のこの場にてやった事を言えるようにしたいと思います。



60周年記念事業実行委員会 中村 耕司君
3月2日に行われます、江南マルシェの説明をしていただきました。

点 鐘

会長 南村 朋幸君

本日の食事



会報掲示板



My ROTARYの登録はこちら
※初めての方は
アカウントを作成してください。
※アカウントがある方は
ログインをご覧ください。



ROTARY 2760
アプリダウンロードはこちら



江南 RC 会報 YouTube
チャンネル登録はこちら

写真等ございましたら会報までお知らせください。
(担当 田岡 剛)